

第51回夏季大学「新世代の衛星が切り開く新しい気象の世界」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社) 日本気象学会

後援 (予定)：気象庁，日本地学教育学会，(一財) 気象業務支援センター，(一社) 日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は，最新の気象学の知識の普及を目的として，学生・大学院生，小・中・高等学校の教諭，気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に，毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「新世代の衛星が切り開く新しい気象の世界」です。静止気象衛星「ひまわり8号」は最先端の観測技術を有する放射計(AHI)を搭載し，米国や欧州などの他の次世代静止気象衛星に先駆けて2015年7月7日より運用を開始し，国際的にも注目されています。また，国内外では各国で極軌道衛星の開発も進められており，最先端の科学的知見が蓄積されつつあります。このような背景から，今回の夏季大学では「新世代の衛星」をキーワードとして，近年の衛星観測より明らかとなってきた最先端の科学的知見を基にした幅広い内容について，専門家の皆様から講義を行っていただく企画にしました。

○日程，講義題目(仮題)，講師

2017年7月29日(土)

09:40 開講

09:45-10:00 「講師紹介と夏季大学の概要紹介」

10:00-11:00

「ひまわりの歴史，8号・9号の概要，他の静止気象衛星との比較」

2017年6月

野中健一(気象庁気象衛星センター)

11:00-12:00

「ひまわり8号衛星データの予報現業での利用」

永山隆治(気象庁)

13:30-14:30

「ひまわり8号データの台風解析での利用」

西村修司(気象庁)

14:30-15:30

「衛星観測による黄砂や大気エアロゾルの監視と予測への活用」

田中泰宙(気象庁気象研究所)

2017年7月30日(日)

10:00-11:00

「衛星からの雪氷観測(Terra/Aqua MODIS, GCOM-W, GCOM-C, ひまわり8号)」

堀雅裕(宇宙航空研究開発機構)

11:00-12:00

「衛星からの降水観測(GPM, GSMaP, GCOM-W)」

久保田拓志(宇宙航空研究開発機構)

13:30-14:30

「温室効果ガス等の観測(GOSAT)」

横田達也(東洋大学/国立環境研究所)

14:30-15:30

「衛星がとらえた美しい映像の数々

～球面投影による観測映像のデモンストレーション～」

※講義題目・講義時間は変更となる可能性があります。

○講義会場

気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

会場の地図は、気象庁ウェブサイト (<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/map.html>) をご覧下さい。

○募集対象人数

定員100名程度

○受講料（消費税含む）

5,000円（学生3,000円）

参加申込受付後、郵便口座をお知らせしますので、そちらに受講料の振込みをお願いします。

○講義資料

受講者の方には、事前に講義レジュメをオンライン配布します。また、開催後に、講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには、過去の資料が公開されていますので、ご覧下さい。

○参加申込方法

ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は、「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト (http://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school) をご覧下さい。インターネットへの接続環境をお持ちでない方は、下記事務局の連絡先までお問い合わせ下さい。

○参加申込締め切り

2017年7月21日（金）予定

定員になり次第、締め切らせていただきます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel：03-3216-4403, Fax：03-3216-4401